

野生動物対策について

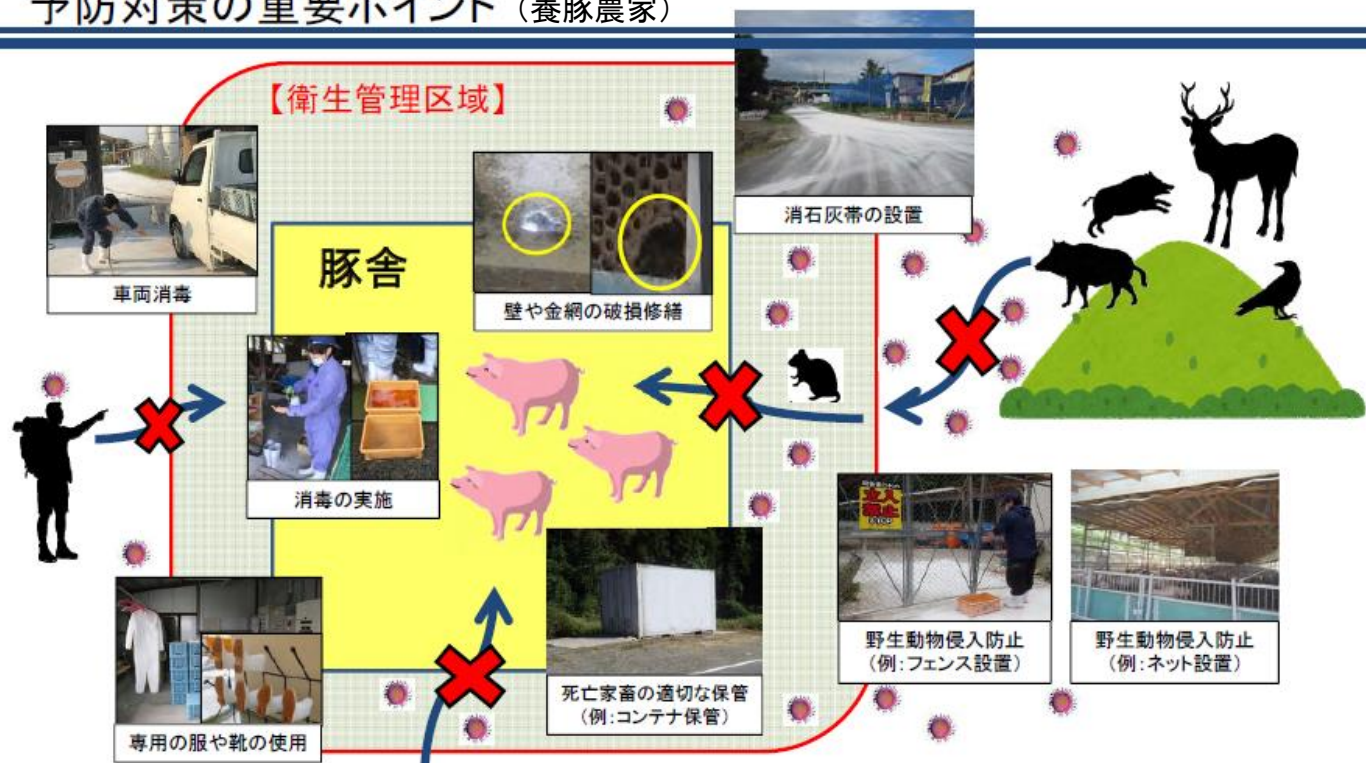
令和元年（2019年度）9月5日現在、豚コレラは**7府県40件**の発生が確認されています。初発から1年が経過し、殺処分頭数は13万頭を超えていますが、いまだに終息していません。本病の農場への侵入経路については、疫学調査された多くの事例で直接・間接的にイノシシ等の野生動物の関与が疑われています。

また、鳥インフルエンザも野鳥をはじめとした野生動物が主な感染源と考えられています。

飼養衛生管理基準には野生動物対策が定められており、遵守・徹底が必要です。これは、単に豚コレラや鳥インフルエンザといった悪性伝染病を防ぐためだけではなく、野生動物が病原体を保有している場合や、飼料袋が破られて飼料が変敗しカビ毒が発生してしまうこともありますので、農場の生産性低下を防ぐ意味でも有効です。

畜舎や衛生管理区域にフェンスや柵、防鳥ネットを設置している場合であっても、破れがあればそこから野生動物は入ってきます。劣化や台風等により施設の破損がある可能性がありますので、定期的に点検し、寒くなる前に修繕をしましょう！

予防対策の重要ポイント（養豚農家）



薬剤耐性菌対策について

抗菌剤は、畜産分野でも動物用医薬品や飼料添加物として使用されており、家畜の健康を守り、安全な畜産物を安定的に生産するために必要です。しかし、家畜への抗菌剤の使用により、**薬剤耐性菌**が増加し、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して人に感染してしまう可能性が指摘されています。

薬剤耐性菌のリスクを低減していくため、我が国では2016年4月に「**薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン**」を策定し、抗菌剤の慎重使用についての取組を実施しています。

AMRの基本対策は、

- ① **飼養衛生管理の徹底**により感染症の発生を未然に防ぐ
- ② **適切なワクチン接種**により感染症に対する抵抗力を賦与する
- ③ **感受性に応じた抗菌剤の選択**による耐性菌の出現の低減

等が挙げられます。（詳細は農林水産省HP参照）

当所でも健康畜及び病畜由来細菌の薬剤耐性調査や生産者への周知等を通してAMRの監視や対策の啓発に取り組んでいます。関係者の皆様におかれましては、今後とも本取組へのご理解、ご協力をお願いします。



先日開催された鶏病研究会熊本県支部鶏病技術研修会で、当所の弓削主任技師が薬剤耐性等に関して発表しました。

令和元年度（2019年度）熊本県乳牛共進会が開催されます

開催日：令和元年（2019年）9月29日(日)

開催場所：大津町の熊本県家畜市場

出品予定等数：JA熊本市 8頭、火の国酪農 7頭、JA熊本宇城 3頭、熊乳協 2頭、JA上益城 1頭 中央家保管内合計 21頭

本県の各地域で選抜された乳牛が一同に会する一大イベントで、当日は様々なイベントが開催されます。

近隣諸国における悪性家畜伝染病発生情報

病名	発生地(国)	畜種	発生年月日
アフリカ豚コレラ	中国(2件)	豚	令和元年(2019年)8月1日 ～令和元年(2019年)8月31日

令和元年(2019年)9月1日時点



毎月**20日**はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

